

部門名	土木コンサルタント業務
案件名	諸喰港沖防波堤改良測量調査設計業務委託
工期（始）	令和4年7月5日
工期（終）	令和5年2月28日
場所	美保関町
事業者名	中電技術コンサルタント株式会社 山陰支社
代表者名	支社長 安達 芳明
技術者役職	管理技術者
技術者名	橋本 淳
工事概要	防波堤の調査・設計業務 ・調査業務 1式 ・設計業務 1式
表彰理由	本業務は、既存の沖防波堤の越波に対する改良設計を行うもので、波高計算や現場の水中地勢状況等の現場調査の結果をもとに、経済性・施工性・安全性など多角的な検討がなされ、的確な対策工法が提案された全体として優良な業務であった。

本工事の表彰技術者である、中電技術コンサルタント株式会社山陰支社の管理技術者（当時）橋本淳氏は受賞の感想を「優秀業務に選ばれて誠に光栄です。受賞に至ったのは、発注者及び地元関係者のご協力・ご指導があつてこそだと思っておりますので、改めて感謝申し上げます。また、社内関係者の支援により円滑に業務を進められたことにも感謝しております。」と話す。



本工事で心掛けたことは「心掛けたことは、調査の際に地元の方々にご迷惑をお掛けしないよう、事前調整をしっかりと行ったこと、また事故を防ぐための安全管理には十分注意を払いました。設計の段階では、航路の幅や水深を考慮しながら、防波堤の改良が航行に支障をきたさないか確認し、検討を行いました。さらに、確実な施工を実現するために、陸上打設の可能性を検討した上で、海上打設の際のコンクリート輸送基点（七類港もしくは諸喰港）の検討を行いました。」と語る。

橋本氏は仕事における今後の目標は「新しい技術や取り組みに挑戦し、それを業務に取り入れることで、さらなる社会貢献を目指していきたいと思っております。」やりがいについては「建設業のやりがいは、自らが設計に関わった業務が実際に形になることで、それが地域の活力になり、住民の安全や利便性に繋がることです。具体的には、今回の業務で対応した箇所では、近年、越波による問題が生じ、港内の漁業活動に影響

響が出ていました。今回の調査設計の成果を基に、今後工事が行われると思いますが、竣工した折には、その達成感は計り知れません。そして、改良した防波堤により越波の問題が解決され、漁業に従事されている皆様、地域住民の皆様の喜ぶ姿を想像すると、私も大変嬉しく感じます。」と話す。

これから建設業界を目指す人へは「かつての建設業は、「3K」（きつい・汚い・危険）というイメージがありましたが、平成 27 年に国土交通省と日本経団連が「新 3K」（給料が良い・休暇が取れる・希望が持てる）を提唱し、実現に向けた取り組みが進められています。この動きの中で、工事用ロボットやドローン、ICT（情報通信技術）、DX（AI、IoT、ビッグデータ）の活用が注目されています。業界としての取り組みはまだ新しいため、期待感が高まっています。これからの建設業界は、新たな発想やアイデアが求められるため、新しい担い手の方々の独自の発想がとても大切になるでしょう。一緒に、建設業界を更に発展させていきましょう。」とメッセージを送った。

最後に、橋本氏が勤務する中電技術コンサルタント株式会社山陰支社について紹介してもらいました。

「中電技術コンサルタント (Chuden Engineering Consultants) は CEC と略称され、Contribution to the Community（地域社会への貢献）、Establish healthy growth of a company and the employee（会社と社員の健全な成長）、Creation and Challenge（創造と挑戦）という意味が含まれています。特に「創造と挑戦」においては、積極的な取り組みを行っております。先進技術センターを立ち上げ、ドローン・ICT（情報通信技術）・DX（AI、IoT、ビッグデータ）等を組み合わせた新たな技術開発や連携を促進しています。さらに、「イノピー（イノベーションプロジェクト）」と題し、複数の部署から若手中心のメンバーが集まり、新たなビジネスモデルの実証、次世代技術者の育成に取り組んでおります。その他、土木・建築・電気・機械・環境・情報部門等を擁する総合建設コンサルタントとして、様々な業務・取組みを行っておりますので、興味のある方は、弊社の HP をご参照願います。」



中電技術コンサルタント株式会社山陰支社
(写真左) 支社長 安達氏
(写真右) 管理技術者 橋本氏